

文化通信 2019年11月11日

# 八木書店 初のアウトレット専門店オープン

## 店舗システムは光和コンピューターの「ブックアンサー」を導入

### 八木書店 初のアウトレット 専門店オープン

八木書店は11月1日、は国内初とみられる。初のアウトレット専門店「PAGES（ペイジズ）」を軽井沢のアウトレットモール「軽井沢・プリンスショッピングプラザ」に店舗面積40坪でオープンした。同社としては古書を除くと初の小売店舗開店で、本格的なアウトレット本の専門店

店舗はモール運営会社が直営するタリースコービーに隣接し店内で行き来ができる。店内には8席のカウンターもあり、飲み物を持ち込むこともできる。

取り扱い商品は出版社が非再販として出荷したバーゲンブックで、旧定

価の半額ほどで販売している。約1万5000点の在庫はすべて面陳もしくは平積みで陳列。すべての本に内容解説のブックレットを付け、表4の定価表示の部分に専用の店舗名とバーコードが入った価格シールを貼っている。

開店当初は社長室の石毛徹氏が常駐して運営にあたり、従業員は契約社員の副店長2人とパート5人。店舗システムは光和コンピューターの「ブックアンサー」を導入。商品はハンディターミナルでロケーション管理を行っている。

気にして、棚板にLEDを組み込むことで商品の照度を上げている。また、「わたしらしき」を知る「自然体」でいいんじゃない？」など15の独自ジャンルで表記している。

品揃えはフルラインナップだが児童書や実用書が多い。児童書には同社がアメリカなどのリメインター業者から仕入れたキャラクター絵本や知育玩具なども並ぶ。オープン初日にはこうした児童書を手取る子連れの親や高齢者の姿がよくみられた。

店内は落ち着いた雰囲気

同社の八木唯貴社長は12年前から軽井沢に住んでいるが、「こ



八木唯貴社長

れだけ人が集まるアウトレットモールに書店がないことに気が付いたが、定価販売が多い新刊書店は難しい。しかし、直営のアウトレット書店ならできるのではないかと気がついた」と店舗開設の背景を話す。



アウトレット専門店「PAGES」

同モールは年間のレジ客数1000万人という人気で、特に夏場と11月1日からのプラチナバーゲンの期間には多くの人が訪れる。